令和５年度　理科　授業改善推進プラン

大田区立東蒲中学校

１　昨年度の授業改善推進プランの検証

（１）　成果

・ＩＣＴを有効に活用することができた。そのことによってできた余裕を話し合い活動や問題演習に充てることができた。

・説明の仕方を工夫することで生徒の理解が深まる。単語数を絞り、図やイラストを提示した上でノートに記録を残すようにし、文や口頭説明を減らす指導により、落ち着いた授業展開ができた。

（２）　課題

・授業中問題演習に取り組む姿勢ができている一方、家庭学習の習慣が身に付いていない。時間を区切って活動させることで、時間内で終わらなかった問題を作り、家庭学習への意欲を高める必要がある。

・結果から考察を書くことを苦手とする生徒が多く、実験と振り返りの授業が繋がらないことがある。定型のワークシートを２時間続きで使用するなどし、学習の繋がりを意識させる。

２　大田区学習効果測定の結果分析

（１）　達成率（経年比較）

	令和５年度結果	令和４年度結果	令和３年度結果
第１学年	全体に、区の正答率よりも下回っており、昨年度の校内平均よりは上回っている。特に、活用の問題の正答率が低い結果となった。		
第２学年	昨年度は区の正答率よりも６ポイント下回っていたが、今年度は大幅に向上がみられ、全体としては区の正答率を上回ることができた。	全体としては、区の正答率よりも６ポイント下回っており、昨年度の校内平均に比べても大きく下回っている。特に、活用の問題の正答率が低くなっている。	
第３学年	全体的に、目標値や区平均よりも下回る結果となった。特に化学や生物の分野の正答率が低い結果となった。	全体としては、区の正答率よりも下回っているものの、活用に関する問題では区の平均に近づいている。	全体としては、全国や区の正答率よりも4.3～4.8ポイント下回った。基礎や活用もほぼ同様な値だった。

（２）　分析（観点別）

①　第１学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
３観点の中では正答率が一番高くなっているが、物のとけ方と月と太陽に関する問題の正答率が非常に低い。	３観点の中で最も正答率が低いが、電気の利用に関する問題の正答率が区の平均より高い。	正答率が全般的に低いが、区の平均よりも大きく下回っている。

② 第２学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
３観点の中でもっとも正答率がたかく、また、区の正答率よりも大きく上回っている。	区の正答率は上回っているものの、目標値には少しとどいていない。	区の正答率は上回っているものの、目標値にはとどいていない。また、区の正答率との差がもっとも小さい。

③ 第３学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値や区平均よりも、やや下回る結果となった。	目標値や区平均よりも大幅に下回る結果となった。	目標値や区平均よりも下回る結果となった。

３ 授業改善のポイント（観点別）

（1）第１学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ワークや単元テストを多く取り入れて、個々の知識・技能の向上できる点を明確にして、知識・技能の向上を図っていく。	観察や実験において、教員の説明を少なくし、自ら実験方法やまとめかた等も生徒に考えさせる場面を多く取り入れていく。	自ら進んで学習する姿勢を育てていくために、ノートづくりやレポートの共有を行って、自ら取り組む態度を養い、それを評価していく。

（2）第２学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観察や実験において、グループだけでなく、個人で作業する場面を多く取り入れることで、個々の知識・技能の向上を図っていく。	観察や実験において、教員の説明を少なくし、実験方法やまとめかた等も生徒に考えさせる場面を多く取り入れていく。	自ら進んで学習する姿勢を育てていくために、結果ではなく、そこにたどり着く過程を評価していく。

（3）第３学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識や技能を定着させるため、小テストや実験の機会を増やしていく。	言語能力や計算能力の低さが根本と思われるが、これらを踏まえて根気よく学習指導にあたる。	苦手意識をもたないように、身近で興味や関心をもちそうな話題取り入れながら授業を実践し、ノートづくりに力を入れさせることを継続する。